

令和5年度 かほく市立河北台中学校 学校評価最終報告書

肯定的な回答、( )内の数はより肯定的な回答の%

重点目標	具体的取組	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	後期達成度 ○はより肯定的な回答	前期達成度 ○はより肯定的な回答	次年度の方向性
1 学力向上に向けた取組の充実	① 校内研究会の充実 ねらいを達成する授業後半の深い学びの充実 ★ ・「互いの考えをつなげる学び合い」「まとめ・振り返り」「適用・活用」による、確実なねらいの達成を目指した授業の共通実践 ・生徒指導の4つのポイントを重視したわかる授業の実践	【努力指標】教職員9 生徒の様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問・指導をしている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A 95%	A 95%	・「つなげる」をキーワードに「①個で考える時間の確保②グループで話し合う③全体への共有④個人に戻し、まとめる・振り返る」の授業実践を推進に全校で取り組めた。次年度はさらなる充実を目指していく。  ・ 思考を深めようとする授業づくりに対する教員の意識は高まっている。
		【満足度指標】生徒(授業2) 授業は分かりやすい	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A 93%	A 93%	
		【成果指標】生徒(授業4) 授業では、互いの考えを出し合い、話し合う活動を通じて、自分の考えが深まっている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A 95%	A 93%	
	② 1人1台端末の積極的・効果的な利活用 ・教科における学びを深める活用 ・個別最適な学びと協働的な学びの一体化	【努力指標】教職員12 授業の中で、ICTの効果的な活用を工夫している	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A 91%	A 90%	・ 授業でのICTの効果的な活用を教員で共有できてきた。今後は、授業の中で生徒主体の学習となるようにタブレット端末を活用した授業に取り組んでいく。  ・ 誰一人取り残さないために、授業での生徒の見取りを充実させていく。
		【努力指標】教職員14 授業の中で生徒を見取り、具体的な支援や更に伸びる働きかけをしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	A 100%	B 90%	
		【満足度指標】生徒3 授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる (R7県目標値95%)	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A 94%	A 91%	
	③ 学力調査の有効活用 ・学力向上ロードマップや学力向上プランに基づく全職員による組織的な指導の徹底と検証	【努力指標】教職員7 学力向上ロードマップや学力向上プラン、学校評価に基づく指導をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	C 86%	B 90%	・ 学力向上ロードマップや学力向上プランをもとに校内研修会で共通理解を図り、学校全体で取組を進めている。  ・ 授業では、主体的に取り組もうとしている生徒が多くいることがうかがえる。
		【成果指標】生徒5 授業では、「自分と同じ(違う)」「なぜだろう」「その根拠は？」など考えながら聞いている	A:80% B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	A 88%	A 83%	
		【努力指標】教職員11 授業の最後に「まとめ・振り返り」「適用・活用」を意識して行っている (R5金沢教育事務所重点)	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	B 95%	B 95%	
	④ キャリア教育の視点を重視した取組推進 ・ 将来の夢や希望を持つことができる指導の工夫 ・ 総合的な学習の時間の指導の工夫	【努力指標】教職員10 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	C 77%	B 86%	・ 総合的な学習を中心に計画的にキャリア教育を進め、自分の将来について見通しを持てるよう取り組んでいるが、将来の夢や目標を十分に持つまでには至っていない。今後も、取組の検証をしながらより良い内容に努めていく。
		【満足度指標】生徒10 将来の夢や目標を持っている	A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	C 71%	C 73%	
	【学校運営協議会より】 ・生徒一人一人をよく見て深い学びに向けて努力していることがよく分かります。 ・授業を主体的に取り組もうとしている生徒が多いことは良いことだと思います。 ・校内研究とは別に他の先生の授業の様子などを先生同士で見に行くことをして、参考にしたり、意見を出し合ったりする場を設けても良いかと思います。 ・将来の夢や希望について考えることは年齢的に考えてもまだイメージできない子が多いと思う。色々な人の出会いや経験を通してキャリアを考えるきっかけ作りを継続することが大事だと思います。 ・将来の夢や目標を持つためには各職業について調べたり自分が大人になったときの理想像を考えることも大事だが、今現在の自分を知ることが重要視すべきではないかと思います。自分の強み					

令和5年度 かほく市立河北台中学校 学校評価最終報告書

肯定的な回答、( )内の数はより肯定的な回答の%

重点目標	具体的取組	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	後期達成度 ○はより肯定的な回答	前期達成度 ○はより肯定的な回答	次年度の方向性
agc 自己指導能力の育成を目指す生徒指導	① 生徒指導の機能等を生かした、生徒一人一人の自己指導能力の育成 ・特別活動や帰りホーム等を活用した体制づくり ・アンケート調査や教育相談を活用した生徒の悩み等に組織で対応 ・学級内の対人関係や集団活動・生活をする際のルールづくりや生徒相互に認め合うリレーションづくり	【成果指標】教職員23 学年担当全員で生徒を育ていく体制ができてきている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B 95%	B 90%	・朝、給食等学年職員全員で対応する体制が成果となっている。各学年全職員で行う面談についても引き続き実施していく。 自分には良いところがあると思うと回答した生徒が増えた。  ・授業や行事等で生徒の頑張りや成長を見取り、認める・褒める指導を継続していく。
		【努力指標】教職員28 生徒を認めたり、励ましたりしながら長所を伸ばす指導をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	B 91%	B 90%	
		【満足度指標】生徒8 自分には、よいところがあると思う (R7県目標値80%)	A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	A 84%	B 78%	
	② 学校全体での、問題行動・不登校等に対する危機意識の向上 ・いじめ・不登校等の未然防止、早期発見、早期対応★ ・SC及び関係機関と連携した教育相談体制の充実 ・i-checkを活用した組織的な対応	【満足度指標】生徒1 学校へ行くのは楽しい	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	B 94%	C 88%	・学校へ行くことが楽しいの肯定回答が伸びた。引き続き、わかる・楽しい授業や行事等を通して、生徒が互いに認め合う関係づくりに努めると共に、いじめは絶対にいけないことであることを全教職員で組織的に指導する。  ・SCや教育相談員等との連携を図り、引き続き、普段の生徒との関わり方や未然防止の取組を進める。  ・いじめの早期発見のため、定期的なアンケートの実施を継続し、さらに保護者との連携を図る。
		【成果指標】生徒9 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	B 98%	B 99%	
		【努力指標】教職員29 いじめや不登校傾向等がないか、生徒観察と理解に努めている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	B 91%	B 95%	
		【満足度指標】保護者7 学校における、いじめの未然防止や早期発見のための取組が伝わってくる	A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	C 67%	C 65%	
	③ 組織的な特別支援教育の推進 ★ ・学校全体で組織的計画的な支援を進めるための校内支援体制の充実 ・個別の教育支援計画、個別の指導計画等に基づく指導・支援の充実	【満足度指標】保護者8 学校は、お子様をよく理解し、指導している	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B 84%	C 75%	・生徒・保護者の話を傾聴し、誠実な対応をしていく。  ・個に応じたきめ細かな指導について、生徒理解研修を充実させ、授業をはじめとする教育活動において生徒理解に努め、一人一人に応じた丁寧な指導をしていく。 ・清掃は週3日であるが、しっかりした活動ができるよう指導していく。
		【努力指標】教職員14 特別な配慮が必要な生徒の共通理解を図り、個に応じた指導・支援に努めている	A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	A 100%	A 90%	
	④ 基本的な生活習慣を高める指導の徹底 ・自然な挨拶、無言清掃、2分前ベル学等の行動 ・生徒会や学年プロ委の活動の活性化	【成果指標】生徒3 清掃活動に時間いっぱい取り組んでいる	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B 98%	B 97%	
		【成果指標】生徒6 学校や家庭・地域でしっかりと挨拶や会釈ができています	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A 97%	A 94%	
	【学校運営協議会より】 ・先生方が一人一人の生徒を理解してくれていると感じる。このまま継続してほしい。 ・通知表渡しの担任からの話を聞いていると、よく理解して子ども達を見てくれているということがよくわかる。また、子供に直接褒めていることで子供達も自信を持ち、肯定感も上がるのではないかとと思う。 ・学年担当の先生全員で共通理解するよう努めているのはとても良いと思う。特別な配慮が必要な生徒について、保護者との信頼関係を築くよう努めているのが素晴らしいです。 ・認める・褒めることは大変良いこと。それに加え、叱ることも大事です。メリハリをつけた指導をしてほしいものです。					

令和5年度 かほく市立河北台中学校 学校評価最終報告書

肯定的な回答、( )内の数はより肯定的な回答の%

重点目標	具体的取組	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	後期達成度 ○はより肯定的な回答	前期達成度 ○はより肯定的な回答	次年度の方向性
3 信頼される学校づくり	① コミュニティー・スクール制度の積極的な活用 ・ 外部人材の有効活用 ・ PTAや生徒会と連携したボランティア活動の実施	【成果指標】教職員15 様々な体験活動において、外部人材が有効活用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B 86%	B 95%	・ 各学年において、外部人材を活用した教育活動が進められている。外部人材を活用した教育活動が生徒たちに好評で多くのことを学んでいる。引き続き外部人材を有効活用していく。
		【満足度指標】生徒11 授業や行事で専門家の人の話や活動は、より勉強になる	A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	A 95%	A 97%	
	② 積極的な情報発信と学校公開 ・ ホームページや学校だより等の充実 ・ 校区内の小学校への出前授業や学習掲示等の情報発信 ・ 新聞等の投稿を活用した豊かな心の育成	【努力指標】教職員16 学校だよりやホームページ等で、教育活動や生徒の姿を発信している 【成果指標】保護者9 学校からの便りやHPで学校の指導方針や子ども達の様子などがわかりやすく伝わってくる	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A 100%	A 100%	・ 総合的な学習の時間を軸に、各学年において様々な形で、生徒主体の学習が進められている。カリ・マネの柱である「発信」を意識した実践が学校全体でなされ、発信の目的が共有されている。引き続き、たよりやHPで学校の生徒の活動の様子を知らせていく。 ・ 学習面や生活面で小中の接続をスムーズにするために小中の先生で授業交流や意見交換を行った。9年間の学びの連続を意識し、確かな学力の育成や生徒指導の充実を図っていく。
③ 小中連携の推進 ・ 校区の小学校との授業参観 ・ 小中9年間を見通した共通取組の推進	【努力指標】教職員 学校は小中連携を積極的に進めている 【成果指標】生徒8 自分で計画を立てて勉強している (R7県目標値75%)	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A 91%	B 75%	B 76%	
4 人材育成と教育の質を高める働き方改革の推進	① 若手ミドルリーダーの育成の計画的実践★ ・ 若手教員をメンターとした若手研修会の実施 ・ 校務分掌等をベテランと若手がバディを組んで進めていく	【成果指標】教職員6 若プロなど校内研修会が充実している	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A 100%	B 90%	・ 教科部会での指導案検討や相互授業参観等を設定して学校全体で取り組めた。ミドルリーダーが若手研修を企画運営することを通して、生徒対応等で学び合う機会があった。取組を通して職員間のコミュニケーションは増え、職員間の共通理解が図られているので次年度も継続していく。
		【成果指標】教職員34 学年や分掌等の取組について、教職員間の共通理解が図られている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B 82%	B 86%	
	② 業務の効率化の取組の推進 ・ 業務内容の見直しと、業務量の平準化 ・ ICTの効果的な活用	【成果指標】教職員35 定時退校時刻や定時退校日を意識して業務を進めるなど、働き方改革に努めている 【成果指標】教職員33 ICT環境の整備で、業務が効率化されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	D 64%	C 71%	・ 定時退庁を意識している様子はある。スクールサポートスタッフ等の有効活用、コドモン、ICT環境が整備されている中で、教職員の業務の効率化を図ることは引き続き大きな課題である。
【学校運営協議会より】 ・ ホームページが見やすくて学校の様子がよく分かります。 ・ 教職員一人一人の業務を他の教職員も把握し、業務分担などするとよいと思います。積極的にAIツールを使って作業の効率化を図るのもよいのではないのでしょうか。 ・ Jrボランティアについては、メンバーの確保が課題で、活動内容についても社会福祉協議会との更なる連携が必要と思います。 ・ 部活動は、できることから顧問2人体制をとり、分担する。しかしこれでは教職員の業務が増えると思うので地域からの指導員を増やしていくのがよいと思います。 ・ 一番の鍵は、先生方が心身共に健康であることが非常に重要であると思います。疲れたら休むことも大事です。先生方の元気や活気がないと生徒たちも乗ってこないと思います。						